

地域プラットフォームの場でリーダーとなる人には、話し合いの場を束ねるために、ブレないミッション(目的)とビジョン(方向)が求められます。

ミッションとビジョンは、リーダーの土台となるものであり、この土台がないと、ファシリテーション・スキル(技術)を持っていたとしても、真にスキルを活かせません。

- 安心安全の場づくり
- 対話・発散の促進(傾聴と質問)
- 収束支援(板書・可視化、フレームワーク)
- 合意形成(最適解)

- 明確なミッションとビジョンを掲げること
- ミッションとビジョンの実現化への情熱
- メンバーの力を活用し、活性化させる「触媒」としての機能
⇨リーダーが1人で頑張りすぎて、依存心を生み出さないこと



■円滑に話し合うためのファシリテーション・スキルはあくまでもツールに過ぎない。

■ブレない軸、すなわちミッションとビジョンをしっかりと持ち、その軸に立ち返る(WHYを問う)ことが、リーダーとしての役割

■これがないと、ツールは使いこなせないし、地域のメンバーの理解・協力も得られない。

4 フレームワーク (議論を促すためのツール)

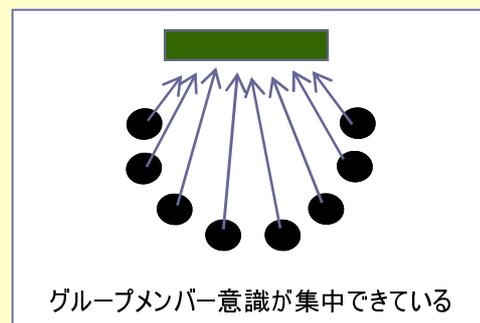
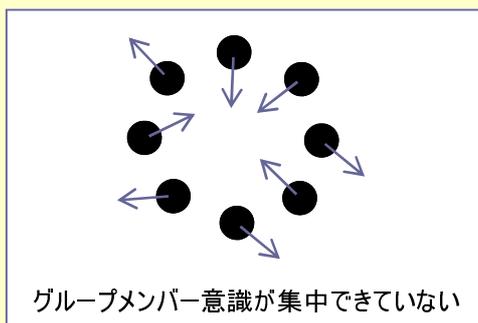
ファシリテーションにおいて、議論を促すための手法(フレームワーク)として、代表的なものを示します。どの手法を用いるのかは、個々のファシリテーターの判断となります。

【板書】

黒板やホワイトボード等に、話し合いで出た意見などを書き込みます。

<効果>

- グループの思考のプロセスを可視化、共有化できる。(遅刻者がいてもフォローできる。)
 - 「それって、さっき言いましたよね。」 → 言うてはいけない言葉
- グループメンバー意識を、集中させることができる。
 - 「今、何の話してるんでしたっけ？」 → 言うてはいけない言葉
- 自分の意見が伝わった、汲んでもらえた、という安心感・参画感を与えることができる。
- 発言内容を、発言者から切り離し、客観性を高めることができる。
- たくさんの記憶を共有できる。
- 写真を撮れば、そのまま議事録になる。



【ワールドカフェ】

大人数(最低でも12名は必要)でも深められる話し合いの手法。

およそ4~6名のメンバーが各テーブルに分かれ、任意に決めたテーマを基に参加者全員で、20~30分ぐらい話し合いを行い、各テーブルごとにホスト役(接待役)の1名を残し、他のメンバーは自由に違うテーブルに移動し話し合いを続けます(話し合うテーマを変える場合もあります)。

それを3回程度行うことで、全体の意見の共有が図れます。

<特徴>

- 多くの人が発言できる
- 模造紙にみんなで出た意見などを書き込むことで、可視化できる。
- メンバーが入れ変わるので、新たな気づきが生まれる。
- 最低4人×3テーブルの12人が必要。
- 準備には、「問い」の設定が大切。
- 1000人でも可能。

<カフェのエチケット>

- 感じたこと、思いついたこと、気づいたことを語る(オープンに語る)。
- 語り手の背景や背後を想像し、語り手が伝えようとしていることをより理解しようという姿勢で、聴く(オープンに聴く)。
- 言語表現できないものでも、ジェスチャーや絵、記号等で表現する。話を聞いていて「良いなあ」と感じたアイデアや気づきも、模造紙へ書(描)き出す。

【ブレインストーミング】

多くの意見アイデアを引き出す手法。とにかくたくさんアイデアや意見を付箋紙に書いてもらい、どんどん模造紙に貼り付けてもらうのがポピュラーです。

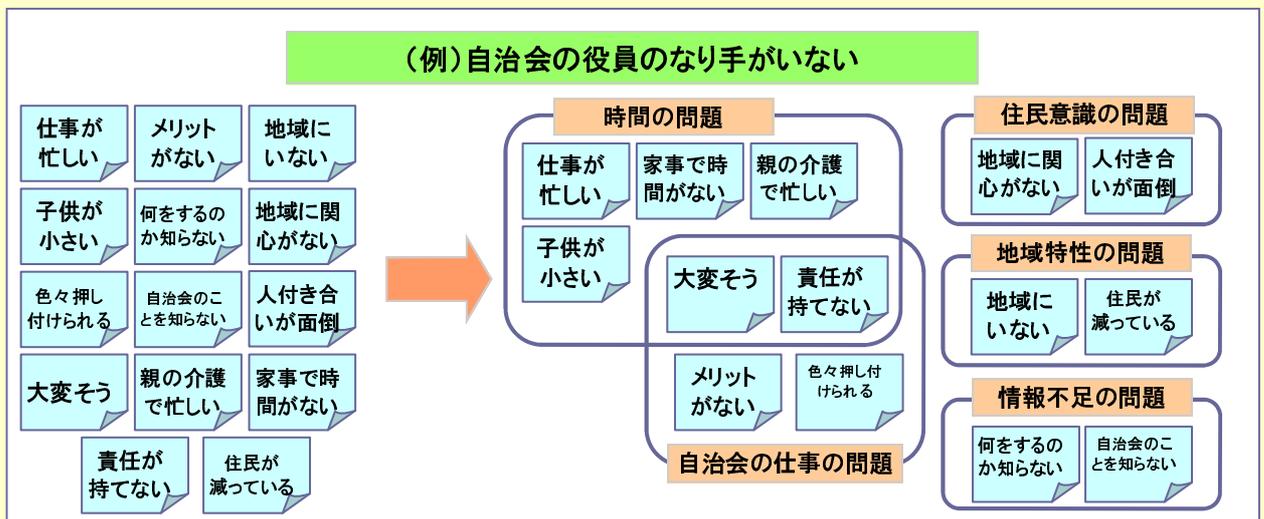
<ルール>

- 他の人のアイデアを評価(批判)しない。
- どんなくだらないアイデアでもブレインストーミングの最中は歓迎する。
- 他の人のアイデアをヒントにして、どんどんアイデアを膨らませることは大歓迎
- 質より量を

【親和図法】

ブレインストーミングで出た意見やアイデアを分類することで、論点を見えるようにする手法です。

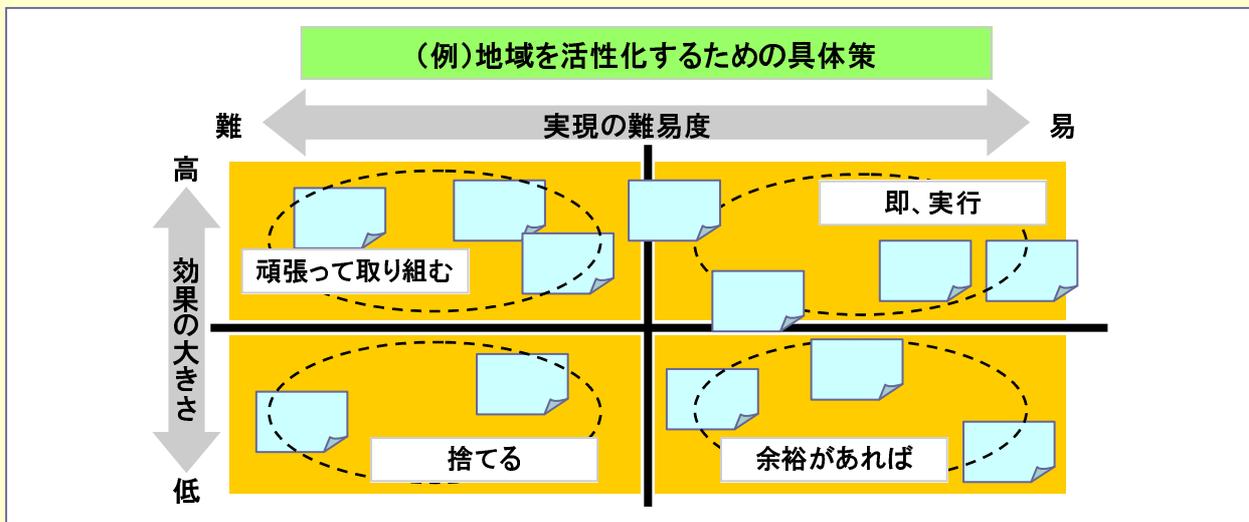
出てきたアイデアを、同じ内容のグループに分類(模造紙に付箋を貼り付け)し、最後に、その分類を整理することで、課題の論点が明らかになります。



【四象限(ペイオフマトリクス)】

たくさんの意見やアイデアを2軸で評価する手法。

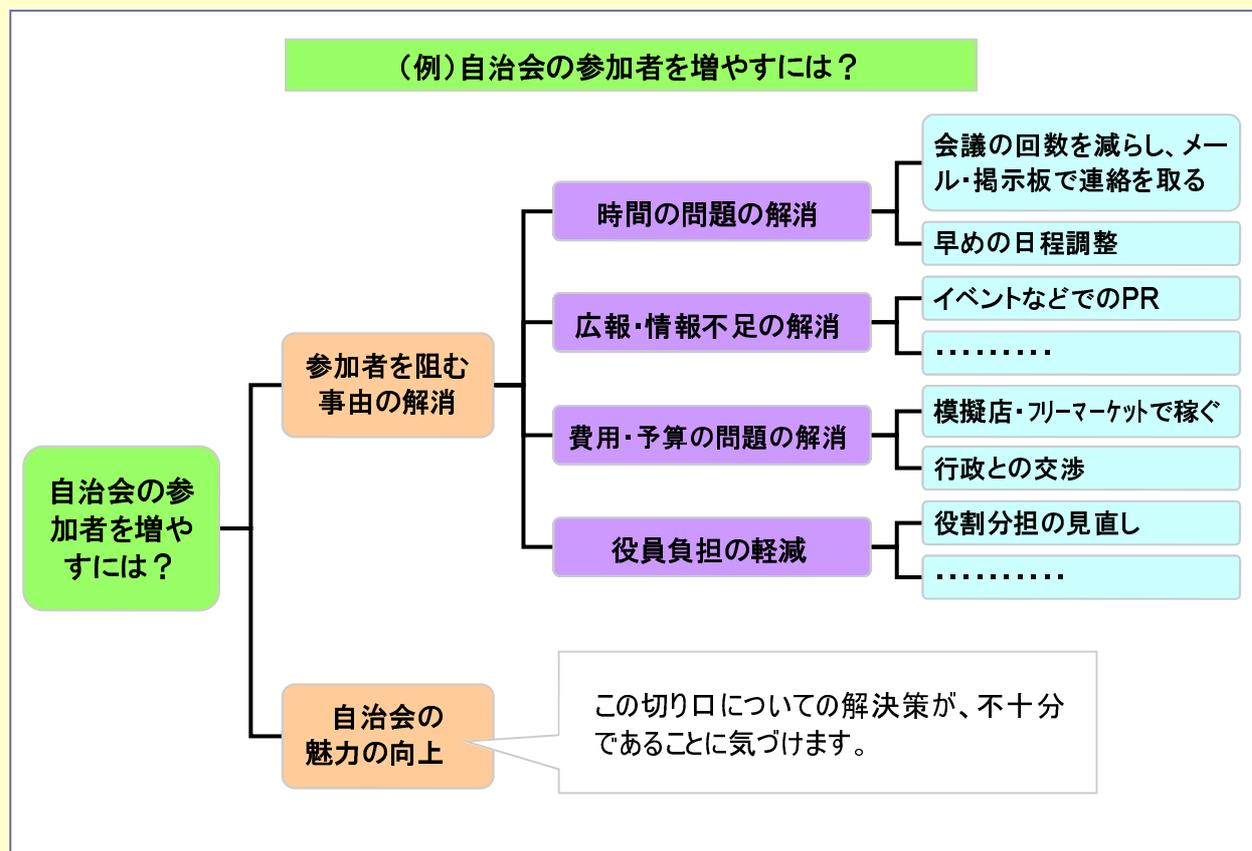
模造紙の中央に十字の線を引き、下の例では、縦軸を「効果の大きさ」とし、上が高く、下に行くほど低い。横軸を「難易度」とし、右が低く、左に行くほど高いとし、グループ内で出たたくさんの意見やアイデアを、話し合いながら分類することで、4つに分かれたマスの上にある具体策が、すぐに実行すべき具体策(効果が高く、取り組みが容易)であると絞れます。



【ロジックツリー】

物事を論理的に分析や検討を行う際には、「結果と原因」、「目的と手段」、「全体と部分」等に展開していきます。この展開の際に、展開した要素間にモレやダブリがないようにして論理展開の全体をツリー状に作り上げたものがロジックツリーです。

ロジックツリーでは、物事の全体像が把握できるので、問題の原因を探ったり、解決策を具体化することができます。



【T型チャート】

左半分と右半分で対称的な意見(例:「メリット」、「デメリット」)を書き、比較・対照する手法です。T型チャートの良いところは、左右に対称的な視点で意見をまとめることで、視点が広がっていく点にあります。

	自治会	プラットフォーム
定義	行政が参加
参加者	地域住民	出入り自由
取り扱う事項	地域の共通課題	何でもあり
費用	自治会費を徴収
.....

	A案	B案	C案	...
費用	×	○	△	
所要時間	○	△	△	
行政支援	○	◎	×	
効果	◎	△	○	
住民の関心	○	×	△	
.....				
.....				

	メリット	デメリット
A案	すぐに実行可能	波及効果が限定的
B案	住民の関心は高い	準備の時間がかかる
C案

【コンフリクトマネジメント】

コンフリクト(対立)した意見を整理することで、解決策を導いていく手法です。

	A氏(子ども会を作るべき)	B氏(子ども会は不要)
主張の内容	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもたちがゲームばかりして一緒に遊ばない ■地域の連帯がない ■子どもの安全が心配 ■..... 	<ul style="list-style-type: none"> ■親の負担が大きい ■習い事などで、子どもの時間が少ない ■子どもが減っており、ニーズが少ない ■会議などの時間が取れない ■.....
両者が一致できる点	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の安全の確保に取り組まなければならない ■地域のコミュニケーションの向上は重要 	
真の問題点	■子どもたちや地域住民が、安心・安全に集まれる場がない	
対応策	アイデア	
	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の児童公園の設置を行政に働きかける ■空き地の開放・使用を地主に頼んでみる。 ■小学校の校庭や空き教室の使用を頼んでみる。 	評価 △ ○ ◎



【プロコン】

全員で「賛成(プロ)」「反対(コン)」の意見を考えることで、全員に異なる視点を明確に意識させ建設的な議論を促す。賛成・反対の理由を全員で共有することで、決定事項への納得感と当事者意識を高めることができます。

(例)駅前広場を自動車乗り入れ禁止にする案について

賛成(プロ)	反対(コン)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 渋滞が解消される。 ■ 安心して歩ける。 ■ フリーマーケットなどを開催して、駅前の活性化に繋がる。 ■ 景観が良くなる。 ■ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駅まで遠い人には、非常に不便 ■ 駅を、ますます利用しなくなってしまう。 ■ 高齢者や、小さな子どもの送り迎えが出来ず、移動の手段が無くなる。 ■ 代替のバスが非常に不便 ■

【出来ていること・出来ていないこと】

全員で「出来ていること」「出来ていないこと」の意見を考えることで、現状を洗い出し、分析して、対策を考えることができます。

対策・・・「出来ていないことを、少しでも出来るようにするために、知恵を絞る」、「出来ていることを、もっとよくするために、知恵を絞る」

(例)地域コミュニケーションを増やすために

出来ていないこと	出来ていること
<ul style="list-style-type: none"> ■ 祭りなどのイベントがない。 ■ 定期的な集会在ない。 ■ 防災、防犯訓練がない。 ■ 井戸端会議がない。 ■ キャンプなどのレクリエーションがない。 ■ 男性同士の交流がない。 ■ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日頃の挨拶をする。 ■ 葬儀等があったときは手伝う。 ■ 急用のとき、子どもを預かる。 ■ 当番を決める時は集まる。 ■

出来ていないことを、少しでも出来るようにするために、知恵を絞る。

出来ていることを、もっとよくするために、知恵を絞る。



～ 協働型の地域社会づくりプロジェクト(平成22年度)～

■目的

- ・地域のきずなを強め、地域コミュニティが本来持っている役割を再生・強化し、「自分たちの地域は自分たちで良くしていく」という地域住民の自主的・主体的な課題解決の取組みが行える体制を整備し、くらしやすい地域をつくる。

■概要

- ・課題に応じて関係する団体に働きかけ、その対話の場を設定し、対話を促進することで、協働により地域課題を解決していく体制を構築する。
- ・具体的には、地域の複数の団体が集まり、対話を行う場としての「地域プラットフォーム」の開催・運営を支援。

■対象地域

- ・原則として、次の条件を備える地域を対象地域とする。
 - ①小学校区、連合自治会、または、それより小さな単位であること
 - ②自治会等による単独の解決が困難な課題を抱えていること(例: 自主防犯、自主防災、高齢者の見守り、健康づくり、子どもの健全育成、環境保護、まちづくり住民の交流など)
 - ③課題解決のための意欲を持っていること
 - ④課題解決のための協働体制を有していないこと、または、既に協働体制を有しているが、課題解決のためには、さらに発展させる必要があること

■支援方法

- ・対象地域を決定した後、プロジェクトに参画する市町村の職員と県職員で構成する支援チームを立ち上げる。
- ・支援チームは、対象地域における地域プラットフォームの開催・運営を支援。
- ・地域プラットフォームの開催は、1地域について5回程度(予定)。

■到達目標

- ・関係団体が、地域の課題を認識・共有し、課題解決のための取組みを企画することが到達目標。

■成果の活用

- ・地域プラットフォームのノウハウをまとめ、他の地域での取組みに活用。
- ・地域プラットフォーム支援のために行政職員に求められる資質をまとめ、人材養成に活用。

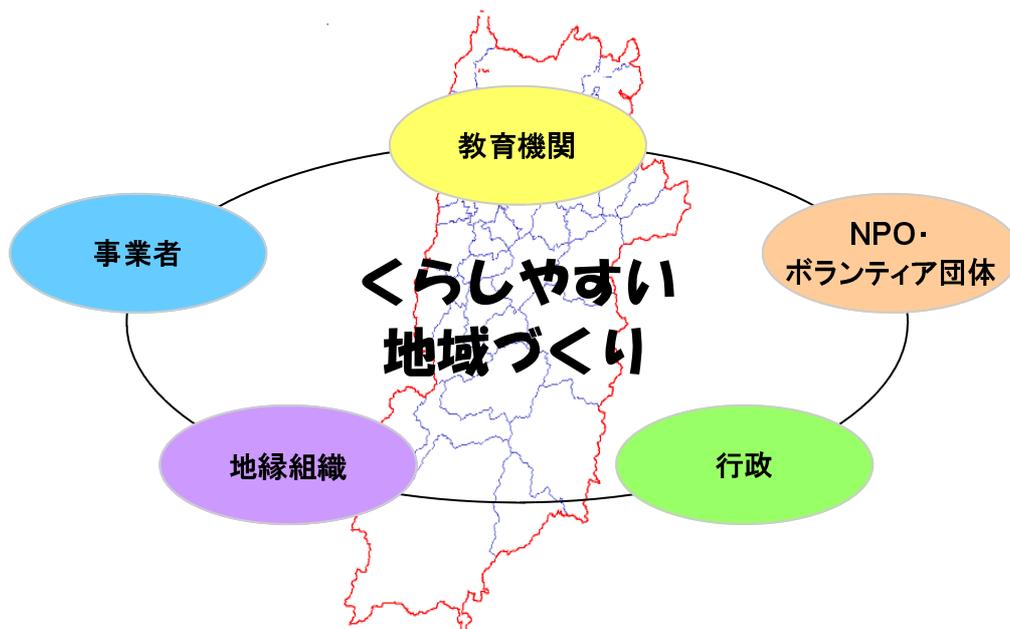




この冊子を基に、住みよい地域社会の実現に向け、コミュニティの維持・活性化に取り組もうとされる皆さまや、それを支援される行政の方々の参考にしていただけることを期待します。

また、地域プラットフォームを実際に開催された結果や感想などを、下記までお送りいただければ幸いです。

奈良県くらし創造部 協働推進課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
TEL 0742-27-8713 FAX 0742-27-6139
E-mail chiiki@nvn.pref.nara.jp



「地域プラットフォーム」 立ち上げ・運営のヒント集

奈良県くらし創造部協働推進課

平成25年3月

〒630-8501 奈良市登大路町30番地

TEL 0742-27-8713

FAX 0742-27-6139

E-mail chiiki@nvn.pref.nara.jp